

## 今月のことば

～保育のビタミン～



### そのままが好きと言われて、不安

佐々木 哲生  
ささき てっしろう

もし、あなたが肩肘張って生きているのに、「そのままが好き!」とか言われたらちよつと辛いではありませんか。しかもそれが、好意を寄せている異性からの言葉だと、なおさらではないでしょうか。

やっぱり、ありのままの自分を好きになつてもらうのが一番ですよ。

子どもたちは、園の中では、年齢が上がつていくごとに、子どもなりにけっこう気をつかうようになるものです。特に、集団生活の中でみんなと仲良く過ごすためには、家庭のようなワガママを言っていたのでは、友だちから「ダメだよ!」って注意されたり、一緒に遊びたいと思つても、仲間に入れてもらえないこともあつたりします。

また、保育の時間は、みんなと一緒に歌ったり、踊ったり、絵を描いたり、演奏をしたり、体操をしたり...と、いろんなことを「みんな

と同じように、きちんとこなさなくては!」と、周囲に気をつかつて、自分なりに必死に頑張っていたりすることもあるようです。

中には、「大好きな先生から嫌われないように...」と「肩肘張って」、精一杯「良い子」を演じている子もいたりします。でも、そんな子は、必要以上にほめられると、「本当は良い子でないことがバレたらどうしよう...」という、不安を抱えていたりするかもしれません。

確かに、子ども一人ひとりの心の内を見抜くことはなかなか難しいものですが、子どもそれぞれの持ち味を認めることはできると思います。だから、「あなたという人間は、この世界に一人しかないんだよ」と、自分が自分であることに、安心感を与えてもらえませんか。